

## 会長の時間 ●富田会長

本日は、新会員に北村会員と櫻井会員をお迎えして、歓迎会を兼ねた納涼例会となっており、親睦委員会の皆様にご挨拶申し上げます。ロータリーの「親睦」についてお話をさせていただきます。

当クラブの初代浅井会長の「親睦こそ我がクラブ」というモットーは周知の通りですが、親睦はロータリーの奉仕のすべての礎となっており、親睦と奉仕はロータリーの2本柱です。

会員は例会に集い、クラブでの親睦で知り合いを広め、やがて心の友となり、親睦の心は奉仕の心へと導かれるとされていますが、創始者ポール・ハリスが、1910年に「ロータリーは親睦と奉仕の調和の中に宿る。」と述べた通り、親睦と奉仕はロータリーの中核的価値観の基本となっています。

ロータリーの親睦は、“Fellowship”を訳したロータリー独自の概念で、クラブ存続に不可欠な連帯感とか協調に近い意味があり、メンバーをつなぐロータリーの引力とも言えます。また、ロータリーの親睦と友情には、「奉仕の理念」を追求する重要な要素が含まれます。即ち、ロータリーの「親睦と友情」は、単なる社交的な意味だけではなく、あくまで他者の為になろうとするアイディアの交換を目的とするものであるべきとされています。

そして、ロータリーでは、綱領の第一に「奉仕の機会として、知り合いを広める事」とありますが、親睦はクラブの目的の一つであるものの、決してロータリーのすべてではないとされています。

当地区の田中毅 PDG の「ロータリーの源流」によれば、親睦会の参加などの親睦活動と親睦を区別すべきことを唱えています。

即ち、クラブの親睦活動の重要な要素に親睦会や家族会などがありますが、これらは会員が友情を増すには必要ですが、奉仕の理念の追求を強化する一過程として行われるべきと唱えており、そして、親睦を深める最適の場所は例会であるべきと主張し、例会に於いては、いかに友情を深めるか、いかにして親睦が保たれる環境を整備するかが最重要と唱えています。

私は、今年度「つながりを深める」という会長テーマとしていますが、親睦を深めることは「つながりを深めること」になり、それがロータリーのポテンシャルな力となり、奉仕の心を実践するロータリー活動すべての源となり、始まりであると信じています。

本日は、「親睦」をそうした意味で考えながら、会員の皆様に新会員を囲んで納涼例会をお楽しみ頂ければ幸いです。

これを持ちまして会長の時間を終わります。ご清聴有難うございました。